



青野 光 議員

本庁舎内での市民サービスについて

問

市民の皆さまが来庁した時、高齢者や子育て中の皆さまに安全、安心して用ができるように、「ベビーカー」の提供を職員に呼び掛け、設置に協力を願う。また、備品名と設置場所等を総合窓口案内所に明記して、表示板を作成し、皆さまが気軽に使用できるように願う。

答 中村市長

ベビーカーの設置は乳幼児を連れて来庁される市民の窓口利用中の負担軽減の観点から必要な市民サービスと考えられている。早速、市職員に不用となったベビーカーの提

供を呼びかけ、安全性、機能性を備えた使用可能なものを選び、三台程度市民ホールに設置し、必要な方が自由に利用できるような表示を行い、市民へのサービスを図りたい。しかし、一階ロビーは狭いので、利用者が十分に満足利用できるサービス提供にはならないかもしれないが、最善を尽くしたい。

また、高齢者や障害者の方を含め、誰もが利用できるよう、現在庁舎内三カ所に多目的トイレを設置しているが、乳幼児を連れて来庁される方へのサービスを図るため、利用度の高い一階多目的トイレにベビーカーの設置について現在検討している。

問

市道稲荷下三谷線について

この道路は農免道路から市道に昇格したが、全面開通により大型車の通行が非常に多くなり、路面等の痛みも激しく、補修費用等増大の一途である。市道より県道への昇格はなぜできないのか。また、

答 中村市長

運行制限できれば費用減少が図れるが、考えはどうか。

下三谷楠木線が開通したことで、県道伊予川内線と国道56号線のバイパス道路として急激に交通量が増加している。平成十九年三月の調査では、一日当たり一方方向八〇〇台の大型車が通行しており、舗装の損傷が著しく、補修費が年々増加しているのが現状である。

農免道路と市道との道路構造の相違点はどちらも道路構造令を準用して設計を行っており変わりはないが、道路交通量及び基礎地盤の支持力により舗装の厚さが異なっている。

県道への昇格は、県当局へは国道56号線から同一方向に併走している伊予川内線があるため、昇格要件に合致しないと回答をもらっている。

また、通行制限についても二車線の幹線道路であるため、規制することは難しい状況である。いずれにしても、今後稲荷下三谷線の舗装改良については、長期計画に盛り込み、国の補助事業を視野に入れ、

答 産業建設部長

安全かつ円滑に通行できるように順次改良していきたいと考えている。

稲荷下三谷線の上吾川区間から下三谷区間については、農免道路で舗装厚さ四センチメートルで改良し、稲荷区間は市道整備事業で全線五メートル一車線道路として舗装厚さ四センチメートルで整備した。その後、昭和六十二年までから平成十一年度までの十三年間で幅員九メートルの二車線片歩道の道路に舗装一〇センチメートルで二次改良を行ったが、その際、道路全幅が改良した区間と現道を利用し、歩道及び路側のみを回復した区間であるので、道路の構造に差異が出ているのが現状である。

上吾川区間から下三谷区間及び国道56号線に接続する稲荷区間の一部において、舗装の損傷が著しい箇所が見受けられるため、今後詳細な調査を行い、調査結果に基づいてより経済的な工法を検討し、順次舗装改良をしていきたい。



市道稲荷下三谷線の道路補修箇所

◆一問一答方式を始めました◆  
伊予市議会では、6月定例会から一般質問については、一問一答方式を採用するとともに、一般質問席を設け、市長に向かって質問できるようにしました。  
一問一答方式は、あらかじめ議長に提出している一般質問発言通告書に従い、それぞれの質問ごとに質問と答弁を行い、与えられた質問時間(三十分)以内に一議題について三回まで質問することができ、以前より分かりやすくなる確かな応答がなされるようになりました。